

SGペガ500の始業前点検

必ず安全確認をしてからご使用ください。

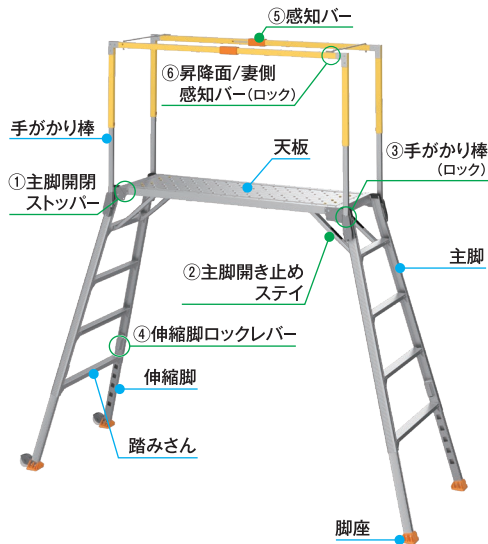
スマートフォンでPDF版を閲覧する



組立方法

ロック確認

- ① 主脚開閉ストッパーがロックされているか？
▶ピンがしっかり出ているか **4箇所**
- ② 主脚開き止めステイがロックされているか？
▶ステイが上に折れていないか **4箇所**
- ③ 手がかり棒がロックされているか？
▶ピンがロック位置の凹にあるか **4箇所**
- ④ 伸縮脚ロックレバーがロックされているか？
▶レバーが浮いていないか **4箇所**



感知バー ロック確認

- ⑤ 感知バーがロックされているか？
▶右端までスライドされているか **2箇所**
- ⑥ 昇降面/妻側感知バーがロックされているか？
▶固定孔に挿し込まれているか **2箇所**

異常の確認

- 1 各部に曲がり・亀裂はないか
主脚 踏みさん 伸縮脚
脚座 天板 手がかり棒 感知バー
昇降面/妻側感知バー
- 2 平らな場所に置いてガタつきがないか？

SGペガ500 禁止事項

150kgを超えて載せない。	2人乗りはしない。	背を向けて降りない。飛び降りない。	荷物を持って昇降しない。	不安定な場所で使わない。	乗り出して作業しない。	天板の上に台を載せて使わない。

注意

- 設置する時や持ち運ぶ時は配電線に注意すること。
- 感電に注意すること。
- 手を挟まないよう注意すること。
- 人や物を乗せたまま移動しないでください。
- 爪先立ちや片足で立たないでください。
- 持ち運ぶときは引きずったり投げたり乱暴に扱わないでください。
- 改造しないでください。

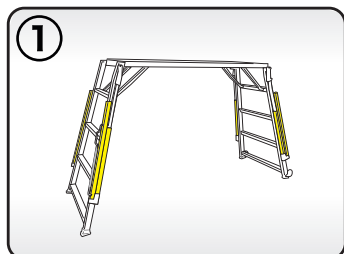
塗料、接着剤、モルタル、発泡ウレタン等の付着は、全損請求となりますので、ご注意ください。

使用上の注意と禁止事項

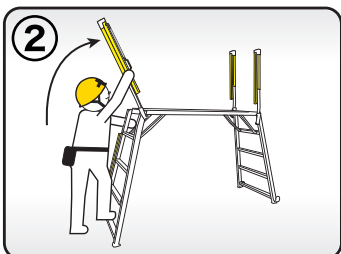
- ・作業台としての使用以外には使わないでください。
 - ・使う前には各部に異常のないことを確認してください。
 - ・天板面が水平になるように設置してください。
 - ・使う前には、主脚開閉ストッパー、主脚開き止めストッパー、伸縮脚ロックレバー、手がかり棒ロックピンを確実にロックしてください。
 - ・昇降には、手がかり棒を必ず使用してください。
 - ・安定しない場所や滑りやすい場所には設置しないでください。
 - ・足元や周囲がはっきり見えない暗がりには設置しないでください。
 - ・脚部を折り畳んだ状態で使わないでください。
 - ・同時に2人以上乗らないでください。
 - ・体重と積荷の合計質量が、最大使用質量を超えて使わないでください。
 - ・作業台から身体を乗り出して作業しないでください。
 - ・踏みさん上では作業を行わないでください。
 - ・作業台を高くするために台や箱を使って設置しないでください。
 - ・作業台の上で、脚立、架台、はしご等を使わないでください。
 - ・天板の端で作業をしないでください。
 - ・爪先立ちや片足で立たないでください。
 - ・作業中、壁を押ししたり引いたりしないでください。
 - ・本体ごと転倒する恐れがあるので、補助手すり及び感知バーに体重をかけないでください。
 - ・作業による応力や反力の発生が予想される場合には、転倒防止脚等を使用する転倒防止措置を講じてください。
 - ・作業台を背にして降りないでください。
 - ・荷物を持って昇降しないでください。
 - ・天板の上に人や荷物を乗せたまま、伸縮脚の長さ調節をしないでください。
 - ・天板での作業で上ばかりに気をとられて、足を踏み外さないように注意してください。
 - ・手がかり棒は踏みさん昇降時の補助具です。用途以外には使用しないでください。
 - ・持ち運ぶときは、引きずったり、投げたり、乱暴に扱わないでください。
 - ・人を乗せたまま移動しないでください。
 - ・固定機構部に、コンクリート等の付着が予想される作業に使用する場合には、あらかじめ該当部分の養生をしてください。
 - ・変形した作業台を使わないでください。
 - ・感電に注意してください。
 - ・改造しないでください。
 - ・不使用時は伸縮脚を収納してください。
 - ・地面から2m以上の作業床を使用する際は、外部に墜落制止用器具等を掛け使用してください。
- [感知バーについて] 感知バーは手すりではありません。
 ・感知バーに寄りかかる等、体をあずけないでください。
 ・感知バーから身を乗り出さないでください。
 ・感知バーに足をかけたり、乗ったりしないでください。
 ・感知バーに墜落制止用器具をかけないでください。
 ・感知バーに物を寄せかけたり、乗せたりしないでください。
 ・壁面作業以外では必ず4面の感知バーを設置してください。

- 1 天板面を下(逆さ)にして置いて下さい。
- 2 脚開閉ストッパーピンを解除し、主脚を(左右とも)開いて下さい。
※ストッパーが確実にロックされているか確認して下さい。
<注>収納時は「先折側」から折り畳んで下さい。
- 3 天板を持ち、本体を起こして下さい。
- 4 開き止めストッパー(4箇所)をセットして下さい。
- 5 左右の手がかり棒をセットして組立完了。
- 6 高さ調整のときは、伸縮脚ロックのレバーを引いて左右の伸縮脚を引き出し、確実にロックされているか確認して下さい。
<注>収納時は逆手順となります。

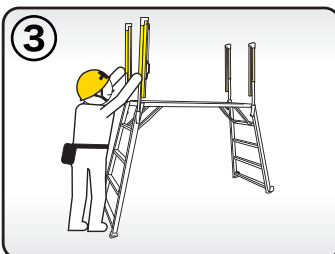
組立方法



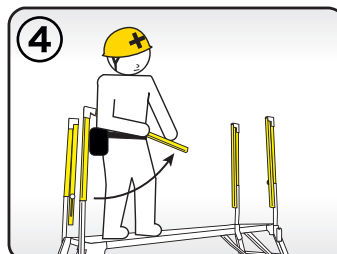
① SGペガ本体を組み立てます。



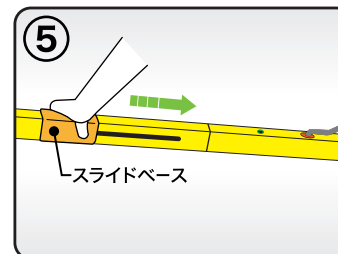
② 感知バー付き手掛かり棒4本を立ち上げます。



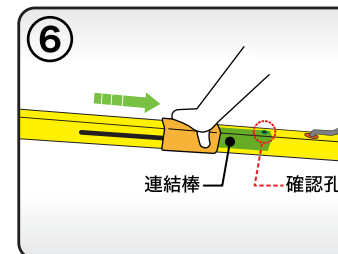
③ 手掛かり棒をつかみ天板に登ります。



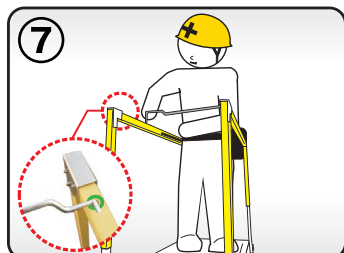
④ 本体感知バーを水平になるように起こします。



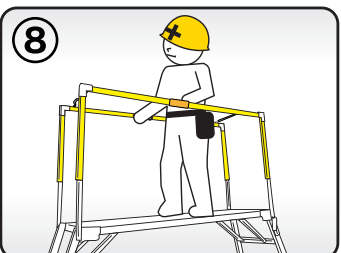
⑤ スライドベースを反対側にスライドします。



⑥ 確認孔で内側の連結棒(緑色)が最右端までスライドしていることを確認します。

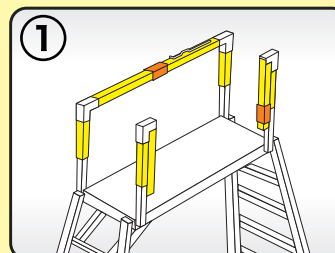


⑦ 昇降面感知バーを引き出し、逆側の穴に挿入します。

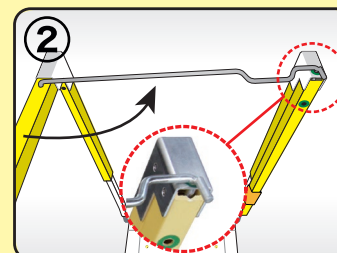


⑧ 組立完了。

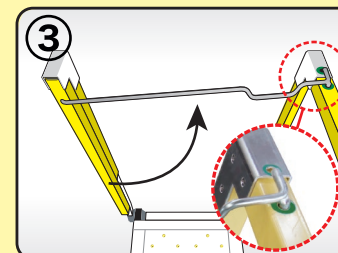
～壁面作業の場合～ 3面囲いの組立方法



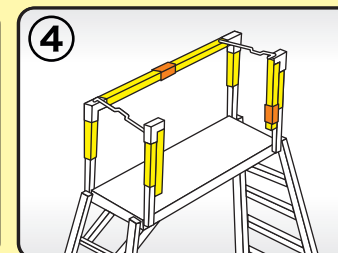
① 上記①～⑥の手順で片側の本体感知バーを組み立てます。



② 組み立てた本体感知バー側の昇降面感知バーを開放側の金物上部の孔に差し込みます。



③ 開放側の昇降面感知バーを組み立てた本体感知バー上の孔に差し込みます。



④ 組立完了。

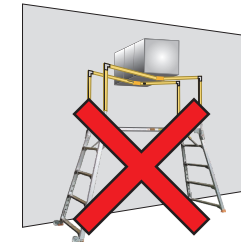
始業前点検事項

作業を始める前に必ず下記項目を点検し、異常がある場合は絶対に使用しないでください。

- 「本体感知バー」「昇降面感知バー」は、損傷していないか。
- 下記の各二箇所のカギ締結部に緩み・外れ等の異常はないか。
 - ①「手掛かり棒」と「本体感知バー」
 - ②「本体感知バー」と「昇降面感知バー」
 - ③「鉛直部材」と「水平部材」
- 「連結棒」は、曲がったり折れたりしていないか。
- 「連結棒」が完全に「本体感知バー」に挿入され、確実にロックされているか。
- 連結棒の「スライドベース」に破損・変形等、異常がないか。

禁止事項 ㊦ 「感知バー」は手すりではありません

- 「感知バー」に寄りかかる等、体をあずけないでください。
- 「感知バー」から身を乗り出さないでください。
- 「感知バー」に足をかけたり、乗ったりしないでください。
- 「感知バー」に墜落制止用器具をかけないでください。
- 「感知バー」に物を寄せかけたり、乗せたりしないでください。
- 壁面作業以外では必ず4面の「感知バー」を設置してください。



現場名			
会社名	責任者		